

栗野土木等

須屋川火山砂防

児童ら貴重な体験



記念植樹後、全員で記念写真に納まる関係者。湧水町の現地で

成会の児童や父兄らと交流を深めた。吉松中央公民館別館に集合した参加者約40人を前に前原所長が「工事の完成で、住民の皆さんが一段と安全・安心に暮らせるようになった様子を覚えてください」と挨拶した後、前原和寛技術主査が事業概要を説明。参加

者は砂防啓発ビデオを視聴して、防災意識の大切さを心に刻んでいた。湧水町中野の堰堤建設地に移動した児童らは、真摯な人河川砂防課長から現場説明を受けた後、前原所長や中村重雄上川西公民館長らと、サクラ

県建築士会指宿支部青年部

母校にベンチ寄贈



設置されたベンチを前に写真に納まる関係者。指宿市の現地で

県建築士会指宿支部青年部(上林山成宏部会長)は10日、鹿児島市の喜入町を含む指宿市郡内の小学校(約11カ所)に12脚の手作りベンチを寄贈した。

この活動は、県産材を活用し地域住民が安らぎをつくる癒しの空間を演出すること、地域住民との交流を図り組織の活動を広く認識してもらうと同時に、会員の育成に、強化及び新規会員の確保へと

つなげることを目的に始められたもので、17年には、その功績が称えられ県林務水産部が推奨する「森林環境税公募事業(木のおふれる街づくり事業)」の対象事業として選定された。このうち、指宿市宮ヶ浜地区の指宿小学校には、上林山部会長をはじめ同部会員、親会の迫田順一支部長のほか、同校の白坂正一校長、下川床泉PTA会長らも出席して贈呈式が行われた。真新しいベンチが設置されると、校庭で遊んでいた児童らが一斉に駆け寄り、腰掛けたり手で感触を確かめる光景が見られた。白坂校長は「母校を愛し、地域住民をはじめ児童らの将来を思いながら取り組まれる部会の方々の志に対し、改めて敬意を表したい」と、会員らへの感謝の言葉を述べた。

応用力試験にも対応

国土交通大臣資格の土木施工管理技士など、各施工管理技士を取得するための「合格対策講座」(主催・建設管理センター)が11日、鹿児島市の県市町村自治会館で開かれ、約50人が合格に向け熱心に受講した。同事業部では、独自の



建設管理センター。約50人が受講した講座。鹿児島市の県市町村自治会館で

今回の講座は、専任講師の奥田恵利矢氏がオリジナルテキストを用いて第1回目の施工計画と建設業法を分かりやすく解説した。なお、18年度土木施工管理技士の願書申請に伴い今回参加できなかった受講希望者に対し、4月24日からスタートする受講者の受け付けを随時行っている。開催講座は、管工事・造園・建設機械の1・2級施工管理技士。この講座は、厚生労働大臣指定教育訓練講座(施設番号01020)、キャリア形成促進助成金適用講座として、助成金の受給も可能。問い合わせ及び申し込みは、建設管理センター

新政昭氏が死去

長年にわたり本県建設業の発展に尽力してきた新谷昭氏(加賀親代表取締役会長)が13日死去した。73歳。通夜はきょう14日午後6時、葬儀告別式は15日午前11時30分から、いずれも川辺町のルミエール川辺斎場(☎0993・56・4444)で執り行われる。喪主は妻・トシ子さん。同氏は、県建設業協会加世田支部副支部長や川辺ダム安全協議会長などを歴任。広い見識と豊かな人間性から、建設業界をはじめ各方面から高い評価を得てきた。特に川辺ダム整備においては、陣頭指揮を執るなど多大な貢献を果たした。

寄稿



清めの水

水はいろいろな汚染物質や雑菌を洗い流してくれる。手や体を洗ったり食器などを洗ったりするの水である。水が無ければ汚れや雑菌を落とすことはできず、種々のバクテリアが繁殖し病原菌がはびこってわれわれ人間の生命維持は困難であつたであろう。多くの宗教で水による清めの儀式がある。

水の不思議な力に感謝

教会で小さな皿の上の水を指で跳ね上げ、信者に振り掛ける光景を見かけるが、これも水による清めの儀式である。インドでヒンズー教の寺院を訪れたことがあ

濱田 紘氏

心なごむ水 遊牧民が砂漠を旅しやとオアシスに辿り着いたときの気持ちは



エデンの園でのアシの舟・数力国の人々が製作中

環境ビジネスセミナー リスク管理など解説



経済産業省主催の環境ビジネスセミナーが13日、鹿児島市のレクストン鹿

経済産業省 約50人が受講した講座。座長は鹿児島市の県市町村自治会館で

理業などから約60人が参加し有害化学物質や環境リスクの管理について認識を深めた。冒頭、九州経済産業局資源エネルギー環境部環境対策課の古賀秀一課長が「経済産業省では、産業界、企業の力を強める取り組みを行っていく。セミナーは、環境経営のために役立つ内容となっており、各自が会社に帰ってからも他の職員への周知徹底をお

管理についての歴史と問題点から、新制度、排出抑制対策等を解説。①守るべきことの順守②しなければならぬことの実行③できることの励行により、家庭・会社・社会が発展し、持続可能な発展となる一などまとめ

また、日和産業(株)環境ソリューションセンターの西田眞吾シニアコンサルタントは「環境リスク管理の実務」を説明した。